

大井町食品ロス実態調査報告書

(1) 実施概要

| | |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■実施日時 | 令和元年12月5日(木) |
| ■作業場所 | 大井町剪定枝破砕場 |
| ■作業時間 | 8:30～16:00(休憩・準備片付け含む) ※調査試料は9時00分頃搬入、組成調査作業は9時00分～15時30分 |
| ■作業体制 | 大井町職員4名(試料の搬入作業) 大井町、中井町、松田町、足柄東部清掃組合 職員8名(組成調査作業) |
| ■調査試料 | <ul style="list-style-type: none"> ・2地域、①平坦部(住宅地域)、②丘陵部(農村地域)を調査対象とする。 ・2地域合計で約480kg(①が約255kg、②が約225kg)の試料から、合計で約175kgの食品廃棄物を抽出、組成調査を行う。 ・サンプルは平ボディ車で収集、収集したごみは全量を調査試料とした。 |

(2) 調査実施計画

1) 処理計画・目標等

「大井町一般廃棄物処理基本計画」(平成18年3月策定)に基づき、「スリムで持続可能なごみ処理を推進」を基本理念に、「住民、事業者、行政の役割分担と協働によるごみの削減」及び「現行廃棄物システムの効率化と推進」という2つの基本方針を設定しており、家庭ごみはその排出抑制と再資源化に努め、令和2年度までに1人1日当たり466g/人・日以下にすることを目標として掲げている。

食品廃棄物に関連する施策としては、広報や町政懇話会等を通じて、食材の計画的な購入や食材の食べ切りなど発生抑制の啓発活動を行うとともに、段ボールコンポストを使用した、生ごみの減量化・たい肥化を推進しており、希望者に対しては無料で機材を配布するなど、町民が利用しやすい環境整備を行っている。

2) 対象とする一般廃棄物

大井町の家庭ごみの分別方法等について図表 1 に示す。食品ロスに関する調査は「燃やすごみ」を対象に調査を実施した。

図表 1 家庭ごみの出し方の概要（大井町）

| 項目 | 内容 |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 家庭ごみの分別 | ・燃やすごみ、不燃ごみ、資源（古紙、布、容器包装プラスチック、びん、缶、ペットボトル）、有害ごみ、粗大ごみ、剪定枝 |
| うち、「燃やすごみ」の内容 | ・週 2 回の収集 ・生ごみ（厨芥類）、プラスチック製品、革製品、ゴム類、繊維類、枝（太さ 5 cm まで）、その他 30 cm 程度までの可燃性のもの |
| ごみ袋の有料化 | ・家庭ごみの指定袋あり ・店頭価格の指定無し |
| その他 | ・容器包装プラスチックの収集あり（プラスチック製容器・包装類、発砲スチロール、汚れが落ちないものは燃やすごみへ） 週 1 回 ・古紙、布の収集あり（新聞、雑誌、ダンボール、飲料用パック、ざつ紙、汚れていない布類） 月 2 回 |

3) 調査対象地域・採取方法等の検討

調査対象地域は地域の特性を踏まえて、「①平坦部（住宅地域）」、「②丘陵部（農村地域）」の 2 地域とした。

各地域の特徴としては、「①平坦部（住宅地域）」は戸建住宅が多く、ファミリー層から高齢者層までの世帯が住み、近距離にはスーパーや飲食店などの商業施設がある地域、「②丘陵部（農村地域）」は農地が多く残っており兼業農家が多い地域である。

調査日当日の朝、ごみ集積所に家庭から排出された「燃やすごみ」を町職員が「①平坦部（住宅地域）」は 2t 平ボディ車 1 台で、「②丘陵部（農村地域）」は軽トラック 2 台で収集し、調査場所である大井町剪定枝破碎場に搬入した。

(3) 調査結果の概要

1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 2）、2 地域の合計で 130 袋 477kg、1 袋あたりの平均重量は 3.7kg であった。地域別に見ると、①平坦部（住宅地域）が 70 袋 254kg、②丘陵部（農村地域）が 60 袋 223kg であった。

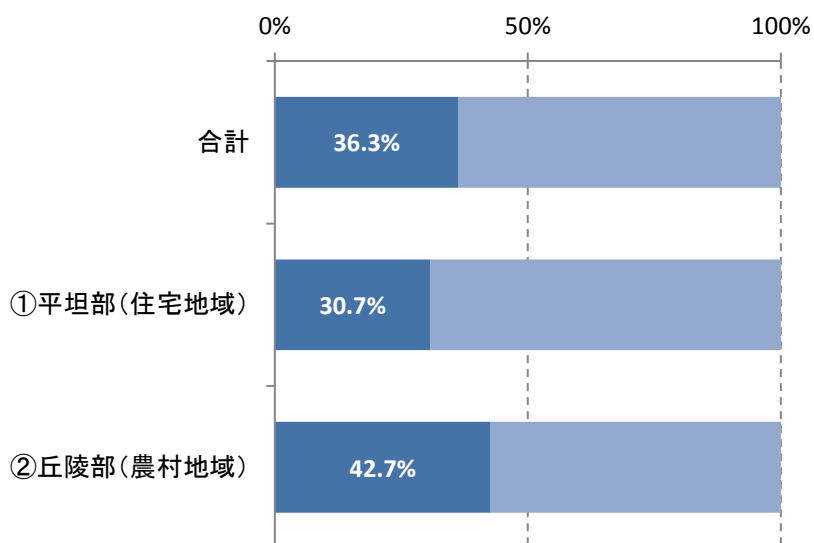
図表 2 調査対象とした試料概要（大井町）

| | 袋数(個) | 重量(kg) | 容量(L) | 袋あたり | |
|------------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | | | | 重量(kg) | 容量(L) |
| 合計 | 130 | 477 | 5,110 | 3.7 | 39.3 |
| ①平坦部（住宅地域） | 70 | 254 | 2,795 | 3.6 | 39.9 |
| ②丘陵部（農村地域） | 60 | 223 | 2,315 | 3.7 | 38.6 |

※合計は、2 地域の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 3）、2 地域の合計では 36.3%、地域別に見ると①平坦部（住宅地域）が 30.7%、②丘陵部（農村地域）が 42.7%となっている。

図表 3 試料中の食品廃棄物の割合（大井町）



(単位:kg)

| | サンプリング試料 A | うち、食品廃棄物 B | 食品廃棄物割合 C(=B/A) | 食品廃棄物以外 D(=1-C) |
|------------|---------------|---------------|--------------------|--------------------|
| 合計 | 477.08 | 173.26 | 36.3% | 63.7% |
| ①平坦部（住宅地域） | 253.76 | 77.98 | 30.7% | 69.3% |
| ②丘陵部（農村地域） | 223.32 | 95.28 | 42.7% | 57.3% |

※合計は、2 地域の調査結果を足して算出したもの

2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

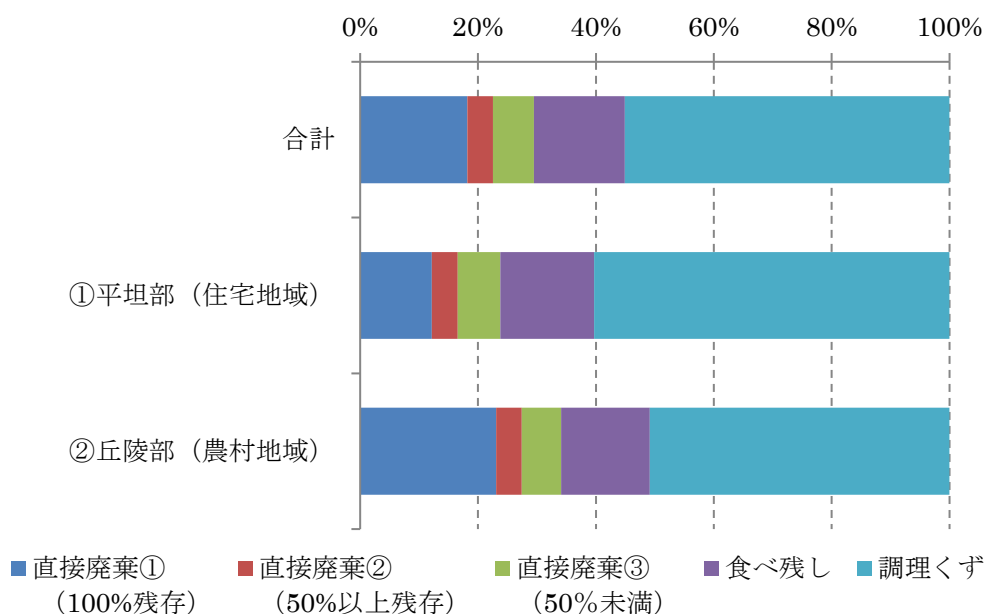
食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄及び食べ残しを食品ロスとする。

食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表 4）、2 地域の合計では 44.9%、地域別に見ると①平坦部（住宅地域）が 39.7%、②丘陵部（農村地域）が 49.1%となっている。地域によって食品ロスの割合は異なり、②丘陵部（農村地域）の食品ロスの割合は、①平坦部（住宅地域）よりも 9.4 ポイント多い。

直接廃棄に着目すると、2 地域の合計で全く手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち 18.2%を占めており、①平坦部（住宅地域）では 12.2%、②丘陵部（農村地域）では 23.1%と、②丘陵部（農村地域）が①平坦部（住宅地域）の 2 倍近く高い。

同様に、食べ残しに着目すると、2 地域の合計では 15.4%、①平坦部（住宅地域）が 15.9%、②丘陵部（農村地域）が 15.0%と、①平坦部（住宅地域）が若干高くなっている。

図表 4 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（大井町）



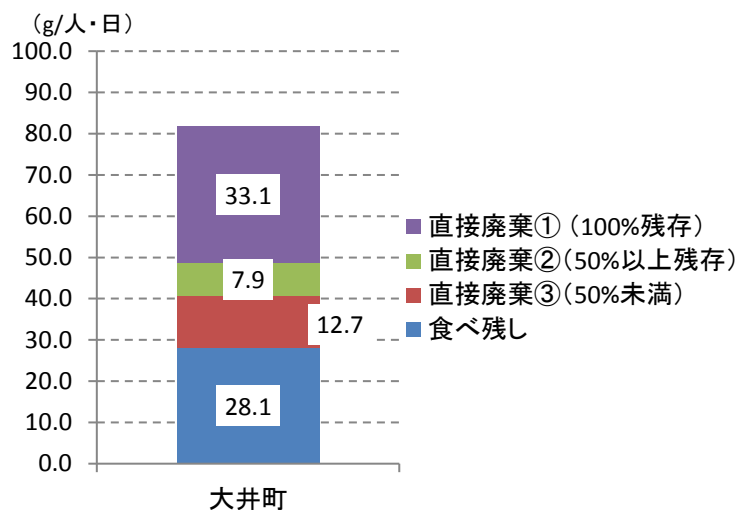
| | 食品ロス割合 | うち直接廃棄（手付かず） | | | うち食べ残し |
|------------|--------|--------------|---------|---------|--------|
| | | 100%残存 | 50%以上残存 | 50%未満残存 | |
| 合計 | 44.9% | 18.2% | 4.3% | 6.9% | 15.4% |
| ①平坦部（住宅地域） | 39.7% | 12.2% | 4.4% | 7.2% | 15.9% |
| ②丘陵部（農村地域） | 49.1% | 23.1% | 4.3% | 6.7% | 15.0% |

※合計は、2 地域の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベース。

3) 1人1日あたりの食品ロス発生量

- 調査結果を踏まえて、1人1日あたりの食品ロス発生量を推計すると 81.8g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（手付かず、100%）が 33.1g/人・日、食べ残しが 28.1g/人・日と推計された。

図表 5 1人1日あたりの食品ロス発生量（大井町）



(4) 調査実施時の写真



組成調査の様子（ごみ袋搬入）



直接廃棄（100%残存）



直接廃棄（80%以上残存）



直接廃棄 (50%残存)



食べ残し



調理くず



直接廃棄 (①平坦部 (住宅地域))



直接廃棄 (②丘陵部 (農村地域))



直接廃棄 (2地域合計)